

# 氷見栽培漁業センターの活用について

## 1 海水取水方法の調査検討

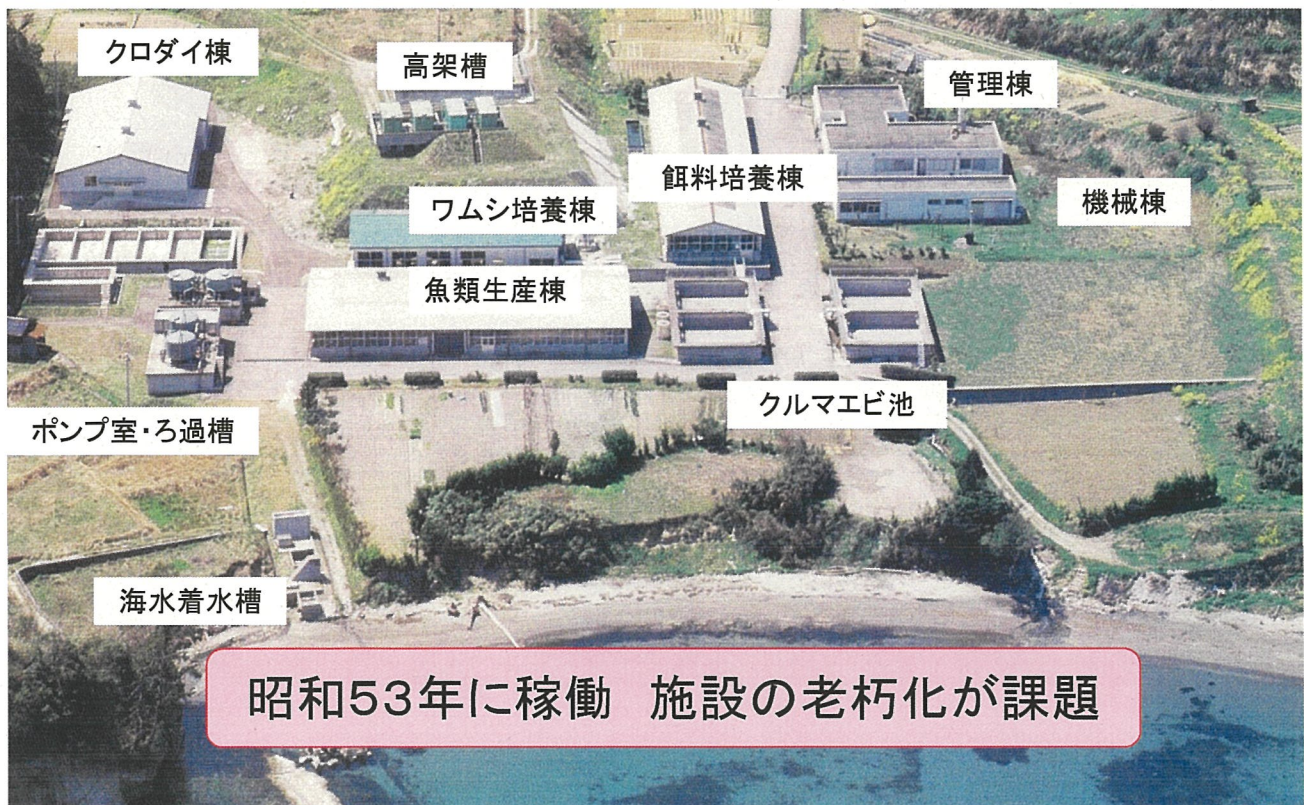
- (1) 取水施設の現状
- (2) 海水井戸取水調査
- (3) 今後の対応

## 2 見学等の受入れ

- (1) 本県の状況
- (2) 他県の状況

1

## ○ 氷見栽培漁業センターの全体図



2

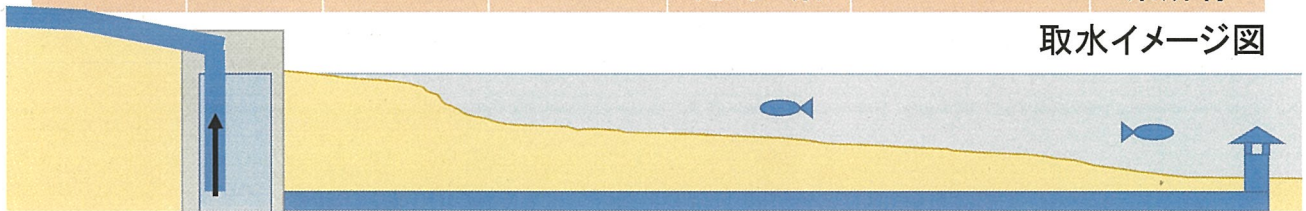


# 1 海水取水方法の調査検討

種苗生産施設の心臓部

## (1) 取水施設の現状

施設名	整備年	取水管延長(m)	取水量(m <sup>3</sup> /日)	取水管孔径(mm)	材質	備考
氷見センター(県)	S63	200	4,800	450	鋼管	H21 使用不可
	H8	300	4,800	400	高密度ポリエチレン管	
滑川センター(公社)	H14	140	3,600	350	鋼管	
	H23	151	4,800	400	高密度ポリエチレン管	
	H16	2,650	960	150 (センター分)		深層水 県所有



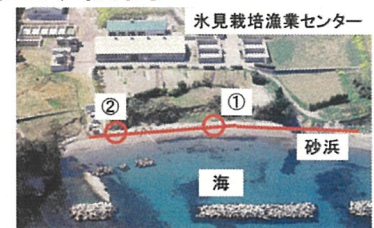
取水イメージ図

3

## (2) 海水井戸取水調査

【目的】沖合からの海水取水管も含め施設が老朽化しているため、新たに海水井戸による取水の可能性を調査、検討

【方法】(1) 電気探査で、付近の海岸地下の塩水分布状況を調査  
(2) 塩水反応があった2地点でボーリング調査を行い、水質や水量を調査



【結果】海水取水の可能性が最も高いと考えられる2地点において、ボーリング調査(7m×1地点、20m×1地点)を実施したが、両地点とも、水質(塩分など)及び水量(1,800ℓ/分が必要)のいずれの面でも栽培漁業に適した海水が取水できなかった。

## (3) 今後の対応

取水管2本のうち1本の高密度ポリエチレン管は、海底に埋設され強度的に問題がなく、定期的にメンテナンスを行うことにより長期の活用が可能と見込まれることから、海水循環システムの導入による海水の効率的利用等と合わせ、当該取水管の有効活用を図る方向で対応。

4



## 2 見学等の受入れ

### (1) 本県の状況

現在、防疫、安全面から見学等の受入れは限定的に対応している

#### 氷見栽培漁業センター

##### ○氷見高校海洋科の実習を受け入れ

- ・H30: クロダイ種苗の標識・放流作業、体調測定、データ整理等(9名、1日)
- ・R1 : アワビ稚貝の計測、クロダイ卵・仔魚の観察等(のべ24名、3日)

##### ○氷見高校海洋科のインターンシップを受け入れ

- ・R1 : クルマエビの計数と測定、アワビ幼生の計数、クロダイ親魚の餌やり等  
(2名、5日)

#### 滑川栽培漁業センター

##### ○滑川高校海洋科の実習を受け入れ

- ・H30: 種苗の餌となる動物プランクトンの計数(11名、1日)
- ・R1 : 種苗の餌となる動物プランクトンの計数(14名、1日)

5

### (2) 他県の状況

#### ～他県における教育や観光への活用事例～

##### 茨城県栽培漁業センター



展示室

展示池

茨城県栽培漁業センターHPより

整備: H7年度

見学施設: 展示室(140㎡)、展示池

- 見学者:
- ・ 来場者は6～7千人/年
  - ・ 多くは小学5年生
  - ・ 高速のインターが近く、栃木県、千葉県、東京都からも多く来場

- その他:
- ・ 展示池は小学生に人気
  - ・ 2年前にリニューアル

##### 愛知県栽培漁業センター



展示棟

飼育魚の展示や様々な紹介を行っています

愛知県栽培漁業センターHPより

整備: H4年度

見学施設: 展示棟(310㎡)

- 見学者:
- ・ 来場者は約400人/年
  - ・ 多くは小学生

- その他:
- ・ ランニングコストはほぼなし
  - ・ 見学者増に向け、地元との連携を検討

6